

Focus on #05, 秋野 大さん 「デイドリーム・ペリリューステーション」 Sea Side

Photo&Text : Ochi Takaji

2005年12月、パラオの激流地帯、ペリリューステーションに期間限定の

デイドリームペリリューステーションを立ち上げた、秋野大さん。

彼がこの海を専門にガイドするようになってからすでに、

3度取材に訪れた。特にペリリューステーションに対する

彼の熱い思いは、こだわりのガイドングからも伺える。

エントリーして、エクスプレスの目印となる

リーフトップにあるサンゴを通過すると、彼は必ず小さく合掌をして、

ダイビングの安全祈願をするとともに、

自分自身を鼓舞している。

他のポイントで彼のそんな姿見ることはない。

エクスプレスに潜っていたとしても、

これから自分自身が身を置くことになる激流で頭がいっぱいで、

その行為をゲストダイバーたちが気づくことは、

おそらくほとんど無いだろう。

何度も一緒に潜ったから、彼のそんな細かい行為にも目が行く。

彼が合掌するのを真横で見ると、

自分自身も同じように気合を入れなおす。

彼が何故ペリリューステーションにこだわるのかを語ってもらった。



越智(以下、越) 何故、ペリリューステーションを立ち上げようと思ったのですか？

秋野(以下、秋) こう言うと誤解されるかもしれないですけど、自分の中で何か

新しいこと、誰もやってなかったことをやりたかったんです。ペリリューステーションを潜っている人はいるのだけど、なんて言うかな、ペリリューステーションという海が、一般のダイバーの人たちにまだまだ認知されていないと思ったんです。

この場所が持っているポテンシャルをきちっとした形で見せたかった。それを目標にしてガイドすることに、やりがいを感じられる海だと感じていたんですね。

それに、パラオには優秀なガイドが多くいたから、皆と同じことをしていたら、埋もれてしまう。そんなパラオ(コロール)で8年間ガイドしていて、もう一歩ステップアップできる海にチャレンジしてみたかったんです。

ガイドする側の欲求、より難しい海をいかに安全にガイドするかなど、全ての条件を満たしてくれるのはペリリューステーションじゃないかと思ったんです……。まあ、とどのつまり、自分のエゴから始まっているんですけどね(笑)。

越 他の海(パラオ以外)は考えなかったのですか？

秋 秋野: 社内的な部分での進出のしやすさ、自分一人でもなんとかなる規模でできる場所って考えたときに、すぐに頭に浮かんだのが、北のカヤンゲルと南のペリリューステーションです。デイドリームでは、2004年に設立10周年を

迎えて、カヤンゲルオーバーナイトツアーや、ルーカス(ペリリューステーションの南にある隠れ根)オーバーナイトツアーを企画するようになったんです。

その時から、コロール以外のパラオの海に次の世代のパラオのダイビングシーンがあると感じていました。

自分一人ですべてできるって言ったけど、実際には、一人ではなくて、コロールからヘルプに来てくれたり、物資送ってもらったりと、ペリリューステーションという前進基地に優秀な人員や物資を送ってくれる場所がコロールにあるからできてくるんですけどね。

それから、自分一人でという意味の中には、予算的な部分もあって、目標として、最小コストで始めようというのもあったんです(笑)。

越 ペリリューステーションをオープンする前年辺り、結構色々な海に潜りに行ってきましたよね？あれは別の海をリサーチされていたのですか？

秋 と言うより、様々なサービスで潜らせてもらって、デイドリームの別形態を模索していたって感じです。何が自分たちにできるんだろう、何が自分たちに足りないんだろう、自分たちに必要な何かを知りたかった。それを外に出て探してみたって感じです。

越 得るものはありましたか？

秋 沢山ありましたよ。特に沖縄に行けたのは大きかったな。沖縄と言っても、特に久米島とか、西表島とかなんですけど。そこで感じたのは、“スローライブ”。

越 コロールよりも？

Akino Hiroshi × Ochi Takaji

Web-lue 2007. Spring



#05, 秋野 大さん 「デイドリーム・ペリリューステーション」

Focus on Sea Side

秋 そうです。コロールより(笑)。そして、この“スローライフ”が自分の中のキーワードになったんです。特にこの“スローライフ”を成功させてと思ったのは、セブのモアルポアールのチキチキダイバーズの勝(渡部勝行)君のところ。彼ら家族の人柄もあると思います。それから、バリに行けたのが良い意味でカルチャーショックだったですね。予備知識の無いまま訪れて、こういう文化があるんだな〜って。久しぶりにお客さんの立場で感動しました。それまでほとんど旅したことなくて……、他の海潜りに行くのなら、自分の海を潜り込めというスタイルなので……。

色々な場所で潜ってみて、海の中でびっくりさせられるようなことが起こって、陸ではスローライフがあって……、でもキャンプ生活じゃなくて、ある程度はインフラが整っている場所でないとお客さんが泊まれないですから。そう考えたときに、カヤンゲルでもアンガウル(ペリリュース島のさらに南にある島)島でもなくて、ペリリュースだと決めました。

越 オープン2年目にして、ガイドに余裕みたいなものを感じますが

秋 余裕というところがちょっと違うんですけど、酸いも甘いも見えてきたっていうのかな〜。でも確かに、リピーターの人には1年目のときのように怖がらせるようなブリーフィングじゃなくなったって良く言われます(笑)。この海(ペリリュース)でガイドとして持っていないければならないデータがそろってきたのも、当然自信につながっていると思います。

でも、やっぱり潮速いと怖いですけどね(笑)。

越 HPに記載されているトピックスを見ていると、オープン1年目のシーズンに比べて、ロウニンアジの群れを当ててる確率も高いように思いますけど

秋 今期はほとんど外してないですね〜。3ヶ月くらい(ほとんど毎日)ペリリュースでスプレスを潜っていて、外したのは10日も無いです。

でも、僕らの腕ではなくて、今年はロウニンたちがリーフに寄って来てるんだと思います。だから、今年からオープンして

いたら、「何だペリリュース簡単じゃん」って誤解していたと思います(笑)。今シーズンはとにかく流れが弱いですね。昨シーズンは流れ強かったから、越智さんにも無理してもらって、深くまで撮影に行っていましたけど、今シーズンはロウニンの群れも結構リーフの上で簡単に見れてしまうんです。明日、潜りますけど、越智さんが潜ったら「なんだよ、ふざけんなよ！こんな風に見れちゃうのかよ」ってくらいの流れと群れ具合だと思いますよ(笑)。(実際、今回の滞在中、エクスプレスを潜った全てのダイビングでロウニンアジの群れを目撃した)。

越 何が理由だと思いますか？

秋 個人的にはエルニーニョのせいなのかな〜と思います。12月まで水温が高かったんですよ。エルニーニョがエクスプレスにどんな影響を与えているのかは自分の憶測でしかん無いんですけど、もしかしたら、エルニーニョ起こった年は、流れ弱くてロウニンアジ狙いやすいのかもなんて思ってみたりしています。

越 来シーズンも今シーズンと同じと

思ったら大変？

秋 いや〜、今年の方が緩いと思ってもらった方がいいですね。今シーズンはとにかくガイドしやすいです。とか言いながら明日から急に流れたりして(笑)。まあ、とにかくそういう意味では昨シーズンに比べて楽させてもらっています。「すごいガイドをしてくださいました」と良く言われますけど、僕らがすごいわけではなくて「海のコンディションに恵まれただけです」と言ってます。

この前58歳の女性の方が来られたのですが、1本目のエクスプレスはスキップしてもらったけど、今年の流れだったので、2本目から入ってもらって、ロウニンアジの群れを目の前で見てもらって、感動して帰っていかれました。「来年も見せてもらえますか？」と言うその方の問いに、「海が許してくれれば」と答えました。

最近、日本国内や世界の海で活躍するガイドで結成された「ガイド会」で「海のシェルパ」という表現がはやっているんです。山の水先案内人で無く、海の中の水先案内人。パラオやペリリュースはまさにその表現がしっくりくる海だと思っています。僕は、誰よりも、自分が潜る海を熟知している職人でありたいと思っています。

越 自分自身、これだけガイドに信頼を置かないと潜れない海もなかなか無いと思っています。

秋 それだけ難しい海なんですよ。ガイドだから当然案内はしますが、エクスプレスやコーナーに潜るときだけは、お客さんを見ます。極力お連れできるよ

に努力はするけど、どうしても連れていけないと思う人はお断りするかもしれません。でも、滞在最終日まで連れて行かなかったことは一度もないです。エクスプレスを潜って、すごい経験をしてもらえるように、お客さんをチューンナップして行くようにしています(笑)。

越 ありがとうございます。

*

冗談を言い合ったり、気の合うガイドは沢山いる。もちろん全てのガイドを信頼していなければ、安心して取材を行うことはできないのだけど、希望した生物を見せてくれるというだけでなく、自分自身が、これほど信頼を置いているガイドはおそらくいないのではないと思う。特別な海だというものもあるだろう。しかし、エクスプレスを潜るとき、目の前を進む「シェルパ」が秋野さんだというだけで、僕は大きな安心感を持って、攻めることができるのだと思う。